

# 教育未来委員会 所管事務調査事項 提案一覧表

No.	テーマ	調査理由等
1	STEAM/PBL教育について	<p>①STEAM 理数系の知識と芸術的なデザイン試行や感性を掛け合わせた先進教育です。複雑な実社会の課題に対して柔軟な発想でアプローチできる人材教育を目指すものです。</p> <p>②PBL(課題解決型学習) 学生が主体となってプロジェクトに参加し、協働しながら特定の課題に取り組む学習手法。正解が一つではない現実の課題(例:地域社会の環境問題など)の調査、仮説検証、チームでの協働、プレゼンテーションの一連のプロセスを重視する。</p> <p>2つの組み合わせが生む効果 STEAMの知識や技術をベース(手段)にし、PBLのプロジェクト(目的)の中で活用することで、学びが単なる暗記で終わらず、実社会で直面する課題を解決する実践的な力がみにつくとされています。</p>
2	<p>①不登校児童生徒に対する支援の現状と課題</p> <p>②特別支援教育及び発達障害児支援の取組状況</p> <p>③ヤングケアラー等、家庭環境に起因する課題への対応</p> <p>④保育士・教職員等の人材確保及び専門性の向上に向けた取組</p> <p>⑤関係部局(教育委員会・こども未来局等)の連携体制</p> <p>⑥他自治体における先進的な取組事例</p>	<p>近年、少子化の進行や共働き世帯の増加、家庭環境の多様化等を背景に、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。これに伴い、不登校児童生徒の増加や発達に特性を有する子どもへの対応、ヤングケアラーへの支援など、多様なニーズへの対応が求められている。</p> <p>また、特別支援教育の充実やインクルーシブ教育の推進が重要となる一方で、教育・保育現場においては専門人材の不足や負担の増大といった課題も顕在化している。</p> <p>本市においても、これらの課題に対し、教育委員会及びこども未来局が連携した総合的な支援体制の構築が重要であることから、多様な支援を必要とする子どもに対する教育・子育て支援の在り方について調査を行う必要がある。</p>
3	子ども・若者のウェルビーイング向上に資する多様な居場所のあり方について	<p>近年、不登校や社会的孤立、生きづらさを抱える子どもやユース世代(若者)が増加しており、彼らの精神的健康の維持や自己肯定感の向上には、家庭や学校以外の第三の居場所(サードプレイス)の確保が不可欠である。</p> <p>本市においては、令和8年度予算において若者の居場所関連施策が新規に計上されるなど、まさに今、次代を担う若者へのアプローチが本格化する重要な局面を迎えている。そこで本委員会において、全国的に設置が進むユースセンターや、潜在的な悩みにアプローチできる相談・保健機能(ユースクリニック機能等)を併せ持つ新たな居場所の先進事例を広く調査する。これにより、本市における新規施策のより効果的な運用と、市内各区におけるバランスの良い拠点整備、および教育・福祉が連携した網羅的な伴走支援体制のあり方について多角的に検証を行う。</p>
4	千葉県教育DXの更なる促進。データ活用による「対処型」から「予防型支援」を目指して	<p>千葉県では、端末の日常活用率は高く、欠席・遅刻・早退連絡など、教職員と保護者間の連絡や校内での情報共有は、一定の取組みが進められていますが、教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化が他都市と比べ進んでいないことなど校務DXの更なる推進を図ることは重要と考えます。</p> <p>また、学校内の連絡蓄積されたデータを結びつけ、子どもSOSの早期発見と教育残業月45時間以内を同時に達成することが重要な視点であると考えます。</p>

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ対策について</li> <li>・国旗・国歌教育について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめが多発しているから</li> <li>・正しい国旗・国歌教育が必要だから</li> </ul>
6	<p>コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)と地域学校協働活動の一体的推進について</p>	<p>制度は機能しているのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 市内のコミュニティ・スクール導入率</li> <li><input type="checkbox"/> 学校運営協議会の開催回数</li> <li><input type="checkbox"/> 委員構成(自治会、PTA、地域団体、企業等)</li> <li><input type="checkbox"/> 協議内容</li> <li><input type="checkbox"/> 学校の意見がどの程度反映されているか</li> </ul> <p>地域学校協働活動の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 学習支援</li> <li><input type="checkbox"/> 登下校見守り</li> <li><input type="checkbox"/> 放課後活動</li> <li><input type="checkbox"/> キャリア教育</li> </ul> <p>PTA・自治会との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> PTA役員と地域学校協働活動推進員との役割分担は。</li> <li><input type="checkbox"/> 自治会との連携状況は。</li> <li><input type="checkbox"/> PTA加入率低下の影響はあるか。</li> <li><input type="checkbox"/> 地域活動の担い手不足への対策は。</li> </ul> <p>地域学校協働活動推進員の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 配置人数</li> <li><input type="checkbox"/> 配置校数</li> <li><input type="checkbox"/> 報酬</li> <li><input type="checkbox"/> 業務内容</li> </ul> <p>子どもへの効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 地域活動参加率の変化は。</li> <li><input type="checkbox"/> 不登校対策との関連は。</li> <li><input type="checkbox"/> キャリア教育への効果は。</li> <li><input type="checkbox"/> 地域への愛着形成に関する調査はあるか。</li> </ul> <p>教員の働き方改革との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 地域学校協働活動により教員負担はどれだけ軽減されたか。</li> <li><input type="checkbox"/> 学校行事の支援実績は。</li> <li><input type="checkbox"/> 教員アンケート結果は。</li> </ul>
7	<p>保育の質の確保について</p>	<p>本市では保育所(園)待機児童の解消に向けて、児童の増加が見込まれる地域での認可保育所の設置及び運営事業者の募集を行い、民間保育園を増加してきた。</p> <p>この間、民間保育園での「不適切保育」が明らかになり、保護者等の不安の声がひろがっている中で、保育の質が問われている状況にある。そうした中でいかに保育の質を確保するかが求められていると感じる。</p> <p>本市でも巡回指導などを実施しているところだが、事業者の責任だけでなく、「不適切保育」を生まないための取り組みの強化が必要と考えるため。</p>
8	<p>いじめ対策について</p>	<p>本市においていじめについて大きな問題が多いため、いじめについて調査する必要がある。</p>

9	教職員のウェルビーイング向上を主軸とした、学校運営のあり方に関する調査	<p>教職員の働き方改革の一環として、教員業務支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の配置拡充が進められてきた。</p> <p>しかしながら、学校現場においては、依然として多忙感や疲弊感を抱える教職員が少なくない状況にある。</p> <p>近年、教職員の「ウェルビーイング（幸福・活力）」の向上を組織目標に掲げ、現場の劇的な意識改革に成功している自治体が見られます。先生がゆとりを持ち、笑顔で生き活きと子どもに向き合うことが、結果として不登校の減少や教育の質的向上という「教育現場の相乗効果」をも生み出していると聞きます。</p> <p>よって、前例踏襲の業務から脱却した先進的な学校運営のあり方を調査し、本市の教育現場の活力向上へと繋げるための参考としたい。</p>
10	教職員の働き方改革について	<p>教員の働き方について、課題が多い様に感じます。</p> <p>千葉市教職員の実態について把握し、改善していく必要があるのではないか。</p>